

5  
0

## あとかぎ

5.1 バックナンバーの御案内

この度は当会研究誌をお読みいただきありがとうございます。

当会は毎年一橋祭に向けてテーマを設けた研究誌を発行しています。本年度は印刷したものを一橋祭で展示するほか、インターネット上でも公開を行いました。過年度の研究誌に関しては、一部を当会のホームページで全文を公開しています。

■ホームページで全文公開されている研究誌（2024年11月現在）

- 1993年「整備新幹線構想を問う～その実像と虚像～」
- 1994年「検証国鉄改革」
- 1995年「地方分権化時代の鉄道整備」
- 1996年「岐路にたつ地方公共交通」
- 1997年「パークアンドライド」
- 1998年「地域開発と交通整備」
- 1999年「利用しやすい交通機関を考える」
- 2000年「合理化とサービス」
- 2001年「モーダルシフト」
- 2002年「通学と交通」
- 2003年「鉄道における情報マネジメント」
- 2004年「鉄道事業に対する投資のあり方」
- 2005年「第三セクター鉄道と地域の未来」
- 2006年「人口動向の変化と都市鉄道」
- 2007年「鉄道事業におけるCSR」
- 2008年「都市間輸送ネットワーク」
- 2009年「鉄道貨物輸送の今」
- 2010年「『鉄道趣味』を旅する」
- 2011年「災害と鉄道」
- 2012年「地域公共交通を考える」
- 2013年「観光と地域鉄道の活性化」
- 2014年「日本の高速鉄道輸出を考える」
- 2015年「人口減少社会における鉄道多角化経営」
- 2016年「直通運転の利便性を考える」
- 2017年「JR路線廃止問題を考える」

- 2018 年「鉄道と『統合』 - メディアの役割を考える」
- 2019 年「『通勤ライナー』と一般列車の共存」
- 2020 年「コロナ禍と鉄道」
- 2021 年「鉄道の『競合』と『共存』」
- 2022 年「鉄道の発展と省人化」
- 2023 年「帰ってきた観光と観光列車戦略」

## 5.2 活動紹介

私たち鉄道研究会は、定期的な旅行、一橋祭への出店、部誌の作成、部会での部員同士の交流を主な活動内容としています。旅行は新歓期、夏休み、冬休みの計3回を基本としていますが、部員の要望次第でそれ以外にも実施する場合があります。一橋祭では、部にある鉄道模型を展示し、各部員が執筆した記事をまとめた部誌を配布しています。テーマはそのときどきによって変わります。その他の部会については、適宜、LINEなどで日程調整をして、部員同士交流を図っています。また、前述した内容でない活動であっても、部員の意見があれば実現できるように心がけています。

## 5.3 編集後記

本年度の研究誌を最後までお読みいただきありがとうございます。

今年度は新歓遠足、夏コン、新歓旅行、夏旅行、そして研究旅行と、恒例行事を行い親睦を深め、その中でできたのが本研究誌です。4月に入部していただいた2名の1年生の方々にも、たくさん協力をしていただきました。

思い返せば、7月末の新歓旅行、福島の前泊地で、「研究テーマは何にしようか？」という話し合いからこの研究は始まりました。その時、何となく話をしていたら「地方私鉄がいいのではないか」という流れになり、本テーマが決定したわけですが、このような経緯で生まれたテーマということで、今回寄稿していただいた皆様にとっては取り組みやすく、良い研究であったのではないかと考えております。

昨年度に引き続き、本年度も佐野が表紙・本文部分のデザインを担当いたしました。基本的な思想は変えず、読みやすさを維持しつつも殺風景にならないようなデザインを心掛けました。来年以降の研究ためも、ご意見をいただけると幸いです。

最後になりますが、本誌をお読みいただいた読者の方、そしてなにより私の不慣れな計画によって苦勞を強いたのにもかかわらず原稿を提出していただいた部員の皆様、そして日々活動に協力いただいているOB・OGの皆様方に感謝を述べて、研究誌2024「地域と中小私鉄」の編集後記とさせていただきます。

(3年 佐野)